主なる神をたたえよ　詩篇 147:1-20	2023.9.24　庄、丘　NO.708 春日部福音自由教会　山田豊

直近の礼拝説教は、神を賛美する、神をたたえることが主題となっていました。会衆賛美に「いける限り主を」を歌いたいと思っていたのですが、リビングプレイズに収録されていることがわかり、皆さんにプリントを配って賛美することといたしました。

詩篇 147 篇は、バビロン捕囚から解放され、エルサレムにて城壁や神殿を再建した後に歌われたものと思われます。ネヘミヤ 12:31－43 に、城壁の上をめぐって賛美したことが描かれており、このようなことが背景にあるのでしょう。43 節に、**彼らはその日、数多くのいけにえを献げて喜んだ。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜んだので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。**と書かれているとおりです。

1－6 節には、神を賛美することは素晴らしいと歌われています。神は散らされたイスラエルの民を呼び集め、祝福されます。教会という言葉は、呼び集められたものという意味があります。イエスキリストの救いの御業を通して、誰でもが救いにあずかるよう呼び集められたのです。イエスキリストの受けられた傷の故に、集められた者の傷は癒されるのです(1 ペテロ 2:24)。無数にある星、星座に名を付けるという表現は、神の叡智ははかり知ることができないことを表しています。

7-11 は、自然界に起きる現象によって、いろいろな楽器を使って神を賛美できることが歌われています。いわゆる自然現象は、私たちを驚かせるようなことばかりです。先月、NHKBS グレートネイチャーという番組で、イスラエルが取り上げられていました。大雨が降ると乾ききった大地が濁流となること、死海のほとりにあるソドム山が岩塩の山であり、高さ 55 メートルほどの筒状の空洞、ブライダルホールを言われる美しい空洞など、驚くようなことが紹介されていました。この現象の成り立ちを調べるのは科学ですが、造り主である神をたたえることもできるのです。

12-40 は、イスラエルの民を神が用いて、救いの御業をしてくださったことが歌われています。城壁に囲まれた町は、しっかりと鍵がおろされて初めて、安全、平和を持つことができます。主なる神は、私たちを平安のうちに守ってくださるお方です。どんな苦しみの時であったとしても、主なる神を賛美することは私たちの力となるのです。小さな野の花や空を飛ぶ鳥を養う神は、あなたをも守ってくださるのです。

引用聖句

ネヘミヤ 12:31－43　私はユダの長たちを城壁に上らせ、感謝の歌をささげる二つの大きな賛美隊として配置した。一組は城壁の上を右の方に、糞の門に向かって進んだ。32 彼らのうしろに続いて進んだ者は、ホシャヤとユダの長たちの半分(省略) 37 彼らは泉の門のところで、城壁の上り口にあるダビデの町の階段をまっすぐに上り、ダビデの家の上を通って東の方の水の門に来た。38 感謝の歌をささげるもう一組の賛美隊は、左の方に進んだ。私はそのうしろに従った。(省略)40 こうして、感謝の歌をささげる二つの賛美隊は神の宮で位置についた。(省略)こうして、歌い手たちは歌い、イズラフヤが指揮をした。43 彼らはその日、数多くのいけにえを献げて喜んだ。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜んだので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。

1 ペテロ 2:24　キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

イザヤ 53:5　しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

2 列王 3:16-17　彼は次のように言った。「【主】はこう言われます。『この涸れた谷にはたくさんの水がたまる。』17 【主】がこう言われるからです。『風を見ず、大雨を見なくても、この涸れた谷には水があふれる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、動物もこれを飲む。』

イザヤ 40:31　しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。

ヨハネ 3:8　風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

■琴　聖書の中には「琴」「立琴」「緒琴」などと訳される楽器がいくつか出てくる．日本の楽器とは形状，構造が異なるため詳しいことは分らないが，歌の伴奏に適したものとして神賛美に多く用いられた．古代エジプトには，現代のハープにも似た大型の琴や，ギリシヤにも残っているやや小ぶりのリラ，現代のバイオリンの原型と思われるキタラの類など，実にさまざまな弦楽器があった上に，同じ楽器でも別のことばで表現，または訳されたところもあって，その正確な分類はきわめて困難である．しかし，はっきりしていることは，弦楽器は専ら指で弦に振動を与えるのみで，現代のように弓で弦をこするという演奏技術は当時のヘブル人には知られていなかったことである．